

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000952		
法人名	有限会社グループホーム幸		
事業所名	有限会社グループホーム幸 1階 りんご		
所在地	北海道小樽市清水町20番9号		
自己評価作成日	平成28年3月20日	評価結果市町村受理日	平成28年5月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0172000952-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年5月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を保つため、利用者と職員がコミュニケーションを取る機会を多く持てるようにしている。 冬期間以外は天気の良い日は毎日外への散歩へ出かけ、気分転換を図るようにしている。 看護師の健康チェックを含め、病気を早期発見できるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム幸」は、小樽市の自然豊かな静かな住宅地に立地している。広い敷地には庭や畑があり、散歩をしながら季節の草花や野菜の生育を楽しむことができる恵まれた環境である。毎朝の申し送りで理念を唱和することで、職員の理念に対する理解度は深められている。管理者は、日頃から適切なケアについて指導する他、全職員が参加できるように配慮しながら毎月2日間に渡って同じ内容で勉強会を実施するなど、職員の資質向上に向けて積極的に取り組んでいる。また、職員の些細な意見や提案にも耳を傾けて運営やケアに活かし、働きやすい職場環境の整備を行っている。介護計画の見直し時にアセスメントシートを更新し、記号を用いてアセスメントシートの内容に運動させた介護計画を作成している。介護記録も、利用者の訴えや様子、スタッフのかけた言葉や行為、利用者の反応・感じたことなど、具体的な状況を詳細に記録できるように書式を工夫している。看護師の資格を持つ両ユニットの管理者を中心にきめ細かく健康チェックをしながら日々の体調管理を行っており、利用者と家族の安心感に繋がっている。管理者と職員はそれぞれの利用者との会話を大切にしながら、一人ひとりが毎日楽しく朗らかに過ごせるように笑顔で温かな支援を行っている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着 型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の方にとって一番大切な事は健康と安心だ と思います。そのためには一日を楽しく愉快に過 せる様な支援を実施できるよう努めております。	地域密着 型サービスを意識した独自の理念を作成 して玄関などに掲示し、毎朝の申し送りで唱和して いる。職員は、常に理念を意識しながら業務を行う ことで理解を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよ う、事業所自体が地域の一員として日常的に交流し ている	町内の一員として会員となり、班長を行い、回覧板 を回したり募金集めなどを行っている。	運営推進会議開催時に地域役員が利用者に声を かけてくれたり、職員の子供達が事業所の盆踊りに 参加して利用者と触れ合っている。町内の廃品回 収に協力したり、冬季は地域の雪の堆積場として敷 地を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人 の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活か している	町内会の会長、民生委員などの係りの方を通じ、認 知症の防止あるいは発症したらどうするかを推進 会議を通じ地域の人々に話しかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価 への取り組み状況等について報告や話し合いを行 い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの生活状況を話したり、身体面、精神面へ の取り組みの大切さ父番大切な事は利用者さん との会話が大切であることを話し、町内において も特に独居の人たちへの取り組みを話し合っている。	町内会長などが参加して、認知症の予防や治療、 在宅地域支援などを議題に年4回開催し、家族に 議事録と資料を送付している。今年度は地域包括 支援センター職員の参加が得られたので、今後も 継続して参加を依頼していく意向である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えな がら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事は積極的に連絡を取りアドバイスを 受けている。例えば法令面において運営面におい てアドバイスを受けている。	管理者は、事故報告書の提出やヒヤリハットの記 入方法などの確認で市役所を訪問している。保護 課の職員が着任の挨拶に來たり、書類を持参す ることもある。生活保護受給者の状況を伝えなが ら情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含 めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッドから転落しそうになる時は床にマットを敷 くなど身体拘束をしないケアに努めている。	「身体拘束ゼロへの手引き」を整備している。管 理者は、職員が「禁止の対象となる具体的な行為」 を理解できるように、事例を挙げながら申し送り などで説明している。職員が不適切な言葉がけを した時はその都度注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学 ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待 が見過ごされることがないように注意を払い、防 止に努めている	利用者との介護時及び支援の時、特に言葉使い に気を付け、そのような言動を認めたらその場で すぐ話し合い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前及び今年後見人が必要とする利用者がおられ、関係者と話し合い、支援の方法を模索している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、運営規程、重要事項説明書、契約書等を中心に説明し、家族の理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時利用者の身体的症状ホームでの生活状況をその都度説明している。また家族からの意見を聞いている。	家族の来訪時に健康状態や日頃の様子を伝えながら意見や要望を聴き取り、内容に応じて「伝達事項」ノートなどに記録して職員間で情報を共有している。利用者の要望などを家族に確認することもある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝申し送り時職員より運営方針について意見を聞いたり特に一人の利用者に対する支援の提案を話し合う機会を設けている。	朝の申し送りで、利用者の状況やケアの方法などについて活発に意見交換している。管理者は、日頃から各職員の意見や提案を聴き取るように配慮しており、職員も話しやすい環境が整えられていると感じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の介護実施の中で個々の職員の能力によって技術が伴わない時があるが、批判するのではなく協力する方法を見つけだすように話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	付きの最後の土日を内部研修とし、一つのケアに問題があればその日のうちに解決方法を話し合うばかりでなく、内部研修の時改めて資質向上のため研修をもうけている。また、外部研修に対しても参加を呼び掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム協議会などの親睦会に参加して交流する機会としている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用される前に事前に本人や家族と面談を行い本人が困っている事、不安な事、希望などを把握することに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約をして頂く時、後程疑問点があれば月日、時間に関係なく連絡してくださいという言葉を追加している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番問題となるのは経済的な面、通院時における送迎及び付添い入院時の対応について話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の体操やレクを通じて共に過ごす時間をもうけて関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の近況を面会時にその都度伝え、共に本人を支えていけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が入所前から利用している美容室、またはホームに来て頂き理容しながら会話を楽しんで頂いている。	近所に住んでいた方が来訪して、利用者と一緒に居室で会話を楽しむこともある。家族や職員の送迎で馴染みの美容室に出かけている利用者もいる。職員と一緒に買い物に出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクの時間を毎日設けて利用者同士が関われるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が入院及び他の施設に移られても家族の気持ちを大切に利用者の近況を聞いたり聞きたい事があればいつでも相談してくださいと呼びかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との関わりから一人ひとりの想いや希望に合わせたケアが実施できるよう毎日の申し送りで話し合いの場を設けて情報の把握に努めている。	殆どの利用者は、会話から思いや意向を把握することができる。利用者たくさん会話を交わすように日頃から心がけ、普段の表情や仕草などからも意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人や家族と面談をし、これまでの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりから一人ひとりの心身の状態や生活について現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや家族の希望、朝の申し送りでの意見交換を通じて現在の状態に合わせた介護計画に反映できるよう努めている。	介護記録やアセスメントシートを基に、計画作成担当者を中心に評価を行い、3ヵ月毎に介護計画の見直しを行っている。記号を用いて、アセスメントシートの内容と連動させて介護計画を作成している。アセスメントシートも3ヵ月毎に更新している。	介護計画の見直し時に変化や課題などの記録をチェックしやすいように、介護記録への記入方法の工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の申し送りで日々のケアについて話し合い、サービス担当者会議を通じて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々家族の希望で面会にきたいとか外出して食事に行きたいとか外泊させたい等の希望があるが、出来る限り希望に合うよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園や小学生の生徒を招いて交流を通じて楽しんで頂ける様支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と相談し、利用者に合った専門医の医療を受けられるよう支援しています。	利用開始時に家族と相談しながら医療機関を決めており、現在は半数程の利用者がかかりつけ医を継続している。家族と受診する時は口頭や書面で健康状態を伝えている。かかりつけ医の看護師や主治医と電話で連絡を取ることもある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の申し送りに看護師が参加し、日頃から情報交換を行い、適切な看護や必要に応じて受診が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前より入院の必要性を家族に説明し、また理解をして頂くため病院の主治医にお願いし入院して頂けるよう情報支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化の基準として食事を食べなくなった、水分を受け付けなくなった、ガン及び心臓病、重度肺炎等になった場合、ホームでの生活は難しくなることを説明している。	利用開始時に「医療連携加算重要事項説明書」に沿って、具体的な状況を挙げながら事業所として可能な対応について説明している。看護師資格を持つ両ユニットの管理者は、日頃から主治医と連携しながら家族と方針を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に数回、内部研修時実習する機会を設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災において3か月に1度火災訓練を行い地震水害については時々朝の申し送りの時避難方法を話し合っている。	夜間の火災を想定した避難訓練を年6回実施し、内2回は消防署の協力を得ている。災害備蓄品を整備して、地域との協力体制についても民生委員と情報を交換している。家具類の地震対策も行っている。	地域の広域避難場所を確認し、更に災害時の避難に備えるよう期待したい。

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より利用者の尊厳やプライバシーに留意し、言葉使いや態度などの接遇に努めている。	職員は利用者との会話を大切にしているが、気になる言葉かけがあればその都度注意しながら、利用者の誇りと人格を重視した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との関わりの中で個々の思いや希望などを察知して自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活を過ごす上でルールを設けているが、個別の希望や意見を取り入れて1人ひとりのペースに合わせた生活をして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりの好みに合わせた衣類を着て過ごして頂ける様、その都度本人と話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの能力に応じてリンゴの皮むきや食器拭きなどを一緒にして頂くことで食事が楽しみなものになるよう働きかけている。	食材と献立は業者に依頼しているが、食事内容を変更し、ラーメン、刺身、寿司、鍋料理にすることもある。誕生日にはケーキを出すなど、変化を持たせた内容になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの利用者の状態に合わせてキザミやミキサーなどの食べやすい工夫をしています。飲み物は本人の好みのものに応じてその都度出しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けと見守りをしています。本人の力に応じて一部介助し、口腔内の清潔に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎のトイレ誘導を行い、トイレでの排泄に努めています。利用者一人ひとりの排泄パターンを毎日記録し、清潔保持の支援を行っています。	トイレチェック表を使い、便の色や量、尿の混濁や浮遊物がないか等を詳細に記録している。パッドの交換や誘導も、さりげない声かけで適切に失敗のないように行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩などの運動に参加して頂き、便秘の予防に努めている。便秘の利用者には腹部マッサージを行っているが、便秘が続く時には医師に相談し、下剤を使用しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外毎日入浴をしているが、利用者の状態に応じて午前や午後の時間帯にずらすなど、個々に沿った支援をしています。	利用者の希望に応じて同性介助で、明るく広い浴室で入浴剤を使い、1人週2回の入浴を支援している。失禁時にはスムーズにシャワー浴を行い、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて睡眠の声掛けをしています。日中の休息は夜間の睡眠に影響がないよう留意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や副作用について朝の申し送り時に話し合いの場を設けて理解の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭散歩やレクリエーションなどを通じて楽しみ事や気分転換の支援をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば日程を話し合い買い物に出かけています。家族との外出や地域の行事などにも参加できるよう支援しています。	温暖な時期は日常的に裏庭の花壇や菜園の周りを散歩したり、車で手宮公園の桜や紅葉、塩谷海岸や朝里公園に出かけている。個別の買い物や通院途中の車窓から眺めなどを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出、外泊時家族を通じて出来る限り支払いは本人にして頂ける様話しかけている。ホームで行く場合は本人の日用品購入において支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて家族への電話や年賀状などを通じて定期的に交流できるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、台所、食堂、浴室、トイレ等は居室より離れており、音などの刺激を与えないよう配慮している。今の大きな窓からは庭が見渡せるようになっており、様々な種類の花を植え季節を感じられるようにしています。	明るい居間には季節の飾りやカレンダー、日めくり、大きなテレビや加湿器、観葉植物を置き、家庭的で居心地のよい空間となっている。窓からは四季の景色を楽しむこともできる。温度や湿度管理にも十分配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭散歩の時にベンチで休みながら会話が出来るとなどの居場所の工夫をしています。普段はデイルームでテレビや音楽を楽しみながら利用者同士会話をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら居室の模様替えをして頂いています。自宅から写真などの思い出の品を飾り、居心地良く過ごして頂ける様工夫をしています。	各居室には、あらかじめ、カーテンやローチェスト、洋服かけ、温湿度計が用意されている。自分の作品やテレビなど馴染みの物品を持ち込み、自分らしく穏やかにのんびりと過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの居室前に写真を飾り、自分の居室が分かるように工夫している。ベッドから転落や転倒の恐れがある時は居室の床にマットを敷いて安全な環境作りに努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000952		
法人名	有限会社グループホーム幸		
事業所名	有限会社グループホーム幸 2階 みかん		
所在地	北海道小樽市清水町20番9号		
自己評価作成日	平成28年3月20日	評価結果市町村受理日	平成28年5月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0172000952-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年5月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を保つため、利用者と職員がコミュニケーションを取る機会を多く持てるようにしている。 冬期間以外は天気の良い日は毎日外への散歩へ出かけ、気分転換を図るようにしている。 看護師の健康チェックを含め、病気を早期発見できるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、ホームの理念を復唱して、職員全員が理念を共有し、実践につなげられるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の役員会や除雪など地域の一員としてつながりをもつようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	役員会・推進会議の時に地域の状況を聞き、アドバイス出来る時はするようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回の運営推進会議を行い、ホームの近況や評価について報告や話し合いを行い、町内会長や民生委員の意見を聞いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に法令面に関しての運営に関する疑問点について、質問をしてアドバイスをもらっている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	講習会などを通じて身体拘束についての知識を持つようにして、身体拘束を行わないケアをする様に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どのようなケースが虐待にあたるかを考える機会を設け、暴力だけでなく、言葉使いによる虐待が起きない様に注意をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に後見制度を利用していた利用者がおられ、その時の経験・知識を今後に活かせるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に運営規程・重要事項説明書、契約書のないようについて説明する場を作り、理解して頂いてから契約に進むようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた時に近況の報告をするとともに本人や家族から何か要望がないかを聞き、その意見を運営に反映させるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝行っている申し送りの際に運営についての意見を職員から聞く様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与の中で処遇改善手当は各職員の努力・実績を中心に考え、労働時間はできる限り無理のない勤務とし、職員同士がたのしく働ける職場を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修や外部研修など、研修の機会を作り、介護技術が向上できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム協議会などの親睦会に参加をして交流する機会としている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族に会い、話を聞く様にし、必要と判断した場合には体験入居をして安心して利用してもらえるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が一番問題にしていることは受診の送迎、入院などのことが多いため、入所時説明するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたり、本人、家族の話や介護支援事業所からの資料を参考にして必要としている支援内容を見極められるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを多く取るようにして、共に生活をしているという関係を築ける様にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のホームでの様子を伝え、必要がある時には家族の協力を得られるような関係作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人に面会に来て頂いた時にまた来てもらえるようお願いしたり、手紙を書く際の支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどでできるだけ全員が集まる機会を設けて、利用者同士が関われるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も公的機関等への支払いや生命保険の手続きを代行するなど支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中でコミュニケーションを取り、また、面会した家族から話を聞くなどして本人の意向を把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に本人、家族、介護支援事業所等からの資料を参考にして、これまでの生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状況を申し送りして話し合いをしてホーム内での情報を集めて現状を把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化や課題が出てきた時に本人や家族主治医等と相談してその意見を介護計画作成に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス提供記録に利用者の反応を書く欄を作り、ケアの結果を職員間で共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が受診に付き添う際や美容室等へ行く際、送迎をするなどして利用者のニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームへ来てくれる洋品店、時計店等を利用し、ホームにいながら不自由のない生活を送れるように支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に際し、受診する病院についての意思を確認し、職員が付き添ったり、看護師からの手紙を渡すなどして連絡を取っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者である看護師がおり、利用者の状態に応じた対応をすぐ相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にホームでの生活の様子を伝え、治療の状況を知ることができるよう、病院や家族と連絡を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食事、水分が取れない、入退院を繰り返すなど重度化した場合、本人、家族、主治医と対応について話し合う事を事前に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、内部研修の場で実習する機会を設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年6回の防災訓練を行い、隣接するデイサービスへも避難できるようにしている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りを損ねるような乱暴な言葉使いにならないようにし、命令する様な口調をしないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話を持つ様にして思いや希望をきくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの利用者の生活ペースを把握してそれに対応した支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用したり、美容室へ送迎したりして、身だしなみを整えられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューの作成は業者に頼んでいるものの、時には好みの食事を出す機会を作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューを作っている業者と相談し、1日のカロリーや栄養バランスに配慮したメニューになるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の力に応じ、口腔ケアの声掛けだけをするひとから、全介助まで行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の多い利用者については、その排泄パターンをつかんでトイレ誘導をするなど対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操など体を動かす機会を作るほか、どうしても便秘がちな利用者については医師と相談をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴の曜日を決めているが本人の希望を聞き、また、失禁時など必要があれば入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や休息の時間など特に決めず、本人が休みたい時に休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の説明を聞いて、薬について理解するよう努めている。特に薬の変更があった時は注意して状態を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションをとって何を楽しみにしているかを把握し、毎日のレクリエーション等で気分転換できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は庭へ散歩に出かけ、美容室を希望された時や買い物で出かける等の支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームで預かっているが、小遣いの範囲内で通信販売を利用する等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が書いた手紙を投函するなど、やりとりができるように支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂に季節・行事の物(クリスマスツリー等)を置いたり、畑を作り、窓の外の景色から季節を感じられるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では気の合う利用者同士で話しやすいように席の配置を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使っている物や思い出のある物などを持ってきてもらい本人が過ごしやすい空間になるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段や浴槽などの段差やその他の危険な場所を把握して、一人での利用することが危ない利用者は介助や危なくない方法を用いるようにしている。		

目標達成計画

事業所名 有限会社 グループホーム幸

作成日：平成 28年 5月 20日

市町村受理日：平成 28年 5月 23日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	災害時の避難場所を正確に決めていない。	安全に避難することができる。	・災害時は同敷地内にあるデイサービスに避難する。 ・地震時は旧手宮西小学校に避難する。 ・津波、水害時は近くの高台に避難する。 いずれの場合も地域住民及びホーム職員の連絡網を通じ協力を求める。	1年
2	26	日頃の介護記録の中から計画通りにじっしされたかどうかモニタリングをするのに時間がかかる。	介護計画に基いたケアが実施されたかどうか分かる。	介護計画の中から計画通りに実施できたかという記録があれば、その部分に黄色などの線を引き、わかりやすいようにする。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。